



震災資料保管庫 岩手・宮城内陸地震での被災構造物を 岩手県より寄贈、展示開始

～7月以降の一般公開受付も本日（6/21）開始～

- 他の被災地との連携や情報共有を通じて、防災・減災の重要性を次世代に継承する取り組みとして、岩手県南広域振興局より平成20年6月に発生した岩手・宮城内陸地震で被災した国道342号祭時（まつるべ）大橋の一部を岩手県より寄贈頂き、当震災資料保管庫内に展示することとなりました。



国道342号 祭時(まつるべ)大橋

- あわせて、震災発生15年を機に、リニューアルしました『震災資料保管庫』の7月以降の一般公開受付を本日より開始します。

※『震災資料保管庫』は、兵庫県南部地震で被災した阪神高速道路の実際損傷した構造物を保管・展示している他に例をみない施設です。

【見学者受付方法】

- *事前予約制で、ホームページ上のみの受付です。
- *定員は1回あたり20名です。
- *開館日・時間は、毎月第1・3水曜日 10:30、13:30、15:30
(1日3回)。所要時間は約1時間。

- 詳しくは、弊社ホームページ(<http://www.hanshin-exp.co.jp>)をご覧ください。



阪神高速被災構造物(震災資料保管庫内)

- 「震災資料保管庫」は、阪神淡路大震災での被災・復旧経験を風化させることなく語り継ぐため、平成11年10月に開設し、行政関係者や専門技術者、小学校の地震防災学習の観点での見学など、多くの方々にご来場頂いています。また、平成21年12月には一般の方々や未来の技術者である子供たちにもわかりやすくご覧頂くためのリニューアルを行い、震災発生後15年の今年1月17日には1日限りで一般公開し、約220名の方にご来場頂きました。